識別番号　L１　2009 年度完了学内共同研究

研究課題　上智大学所蔵漢籍の調査と『上智大学漢籍分類目録』の作成

研究代表者　大島　晃（文学部・国文学科）

共同研究者　山内弘一（文学部・史学科）　大澤正昭（文学部・史学科）
長尾直茂（文学部・国文学科）

Summary

1. This study investigated the books in classical Chinese (including quasi-books in classical Chinese), owned by Sophia University such as Sophia University Central Library.
2. Based on this investigation and inspection, this study attempted to complete the four-part classified catalogue of books in classical Chinese owned by Sophia University, which is named “上智大学漢籍分類目録 [The classified catalogue of books in classical Chinese owned by Sophia University]”. In this process, “上智大学漢籍分類目録（試行目録） [The classified catalogue of books in classical Chinese owned by Sophia University (trial catalogue)]” was issued.

1. 本研究の目的及び背景

１）漢籍は中国清朝までに通行した典籍を指し、また準漢籍はそれに拠り日本で刊行された和刻本漢籍を指していう。ともに固有の体裁・様式を有し、書名・著者等の図書情報の取扱い方をはじめ、その整理に当っては固有の方法を用いることが有効である。また、図書分類も固有の学術体系（四部分類）に依拠するのが、漢籍整理そして古典学の世界では必要な配慮である。

２）本学中央図書館所蔵の漢籍数は、職員の把握できるところで、二万数千冊という概数報告を受けているが、これは洋装排印本、影印本を含んだ数字で、古典籍原本（線装本）との弁別はついていない。現在の図書館の書目情報では、必ずしも正確な古典籍原本情報を備えていない。また漢籍特有の体裁を弁えぬために、本来、一書として扱うべき書籍を分散したり、別書として装訂したものが見うけられ、それを正確に把握することも必要不可欠である。そのためには、これらの点検・調査が必要である。

３）本学が所蔵する漢籍について正確に把握し、それを研究教育に活用できるようにすることは、日本有数の大学図書館を有する本学にとって、国内外の研究機関に対する責務と言ってよい。しかしながら本学図書館では、漢籍整理について専門知識を有する職員はほとんどいない。この現状に鑑み、日常の研究活動上、漢籍にふれる機会を多く持つ文学部国文学科、史学科の教員有志が学内共同研究を組織し、本学の所蔵漢籍の点検と調査を行い、最終的に「上智大学漢籍分類目録」の作成を目指すこととした。

2. 研究の方法

１）上智大学中央図書館をはじめ本学が所蔵する漢籍（含準漢籍）を精査し、その書目情報を点検、修正する。

２）今般の調査・点検を基にして、本学所蔵漢籍について四部分類による「上智大学漢籍分類目録」の作成を目指し、「上智大学漢籍分類目録（試行目録）」を刊行する。

3. 研究の成果

『上智大学漢籍分類目録（試行目録)』の刊行　（2010 年 3 月 31 日発行）

大島晃（代表）・大澤正昭・長尾直茂・山内弘一　編著

＜編纂方針＞

1）本書は、上智大学において所蔵する漢籍及びそれに準ずる書籍を著録した分類目録である。

2）今般、調査・点検の結果、本書に著録した書籍の所蔵機関は、中央図書館、キリシタン文庫、文学部国文学科・文学研究科国文学専攻となる。

3）本書にいう漢籍とは、主として中国において漢語（古漢語）をもって撰述された書籍を指し、さらに朝鮮・日本において翻刻・鈔写したものを含む。但し、著録の対象とした書籍は、その装訂（原装）が線装本・和装本のものにしぼり、洋装排印本・影印本また複写製本については、これを除外した。

4）漢籍と日本漢学とは密接不可分にあることを重視し、「準漢籍」とともに「国書漢文」を併せて著録することとした。「漢籍」「準漢籍」「国書漢文」の別は、『改訂内閣文庫漢籍分類目録』『内閣文庫国書分類目録』に準拠した。

5）四部分類の分目とその排列は、先行の『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』『東京大学総合図書館漢籍分類目録』『京都大学人文科学研究所漢籍分類目録』等を参考にしたが、その規模を勘案して、分目のもと属目の見出しを立てることは省いた。

6）巻首目次のうち、漢籍分類についてはその分類体系を示すものでもあることを考慮し、その全類目を掲げ、現在該当著録書籍がない類目については（無書）として示した。

また、従来、「釋家類」に「外教」乃至「耶蘇教」として収載する関係書籍については、本学の所蔵数と内容とを重視し、「キリスト教（耶蘇教)」として新たに類目を立てることとした。類内の排列は 1924 年『(天津）公教圖書館』（キリシタン文庫所蔵）の分類を参考にした。

7）本目録に著録された書籍は、漢籍 1222 部、準漢籍 73 部、国書漢文 196 部の、総計 1491 部である。（下記の『上智大学漢籍分類目録（試行目録)』分類表及び著録書籍数覧を参照）

＜所蔵漢籍の特質＞

1）中央図書館所蔵漢籍について

現在の所蔵漢籍は、故土橋八千太氏と故山田勝美氏の旧蔵書に由来するものが中心となっている。

土橋氏は第三代上智大学学長、若くして単身上海徐家匯の若瑟学院に学び、のちには上海余山天文台に関わった（『上智大学史資料集』第三集所載の大泉孝『土橋八千太師のこと』参照)。大島が着任時、国文学科研究室の書架上段に透明ビニール袋に入った書籍が置かれていた。その後、土田將雄教授より土橋八千太師の旧蔵書との説明を受けてそれを整理の上、あらためて図書館に移管する縁に恵まれた。1987 年 3 月の手控として 130 部 508 冊のメモが残る。所謂善本と称せるものは少ないが、その多くは上海時代の勉学ぶりをしのばせるものである。

山田氏は、元文学部国文学科教授で漢文学を担当。逝去後、ご遺族がその蔵書を本学に寄贈された際に受入れた書籍である。山田教授の専門に関わる経学・小学関係の書籍や、諸子のうちとくに『論衡』『顔氏家訓』を中心に善本を含んでいる。

２）キリシタン文庫所蔵漢籍

文庫所蔵書籍のうち、清末から民国初期のキリスト教漢籍を貴重書として「2 号館集密書庫」に別置する。その大部分は土橋八千太師の蒐集に由ると推せられる。ただ、土田將雄教授を介して文庫に収蔵する時点で、はなはだ保存の状態が悪く、やむなくほとんどのものを洋装に改装したとされる。その際に表紙封面・書扉等を失い、著録に必要な書誌情報を得られぬものが少なくない。そのため、本目録の記載も繁簡精粗が入り雑じる。本学の特質を示す資料となるだけに、今後専家の協力を得て補正を期したい。

３）文学部国文学科・文学研究科国文学専攻所蔵漢籍について

「国文研究奨励基金」による購入書籍の他に、寄贈・寄託によるものが多く存する。

そのうち、故山井湧元東京大学教授の蔵書についてご家族より大島が寄託を受け、漢籍・準漢籍・国書漢文にかかる書籍の受入れを 2008 年度より進めている。その蔵書は祖父山井幹六（清渓）の旧蔵書を継承しており、幕末から明治・大正・昭和前期の間の漢詩文集（「国書漢文」別集）の多さは特筆できる。

＜附記＞

本目録は、所蔵書籍の調査・点検とともに、該当書籍について本目録の作成を前提に漢籍目録カードに必要著録事項を採取した。編集・校正作業において、目録カードの記載について必要に応じて再点検・補訂を加えたが、遺漏・不備が存することを恐れる。ついては、この一両年に新たな書籍の受入が予定されており、それをも加えながら、さらに補正を加え、『上智大学漢籍目録』として刊行を目指したい。本目録の書名には「試行目録」と添える所以である。

「上智大学漢籍分類目録（試行目録）」分類表及び著録書籍数

	［漢籍］		計	1222	部				
Ⅰ	経	部	小計	312	部	7	戴記類	1	部
	1	経注疏合刻類		42	部	8	詔令奏議類	4	部
	2	易類		18	部	9	傳記類	12	部
	3	書類		8	部	10	時令類	（無書）	
	4	詩類		18	部	11	地理類	23	部
	5	禮類		24	部	12	職官類	2	部
	6	春秋類		27	部	13	政書類	11	部
	7	四書類		45	部	14	書目類	9	部
	8	孝經類		10	部	15	甲骨金石類	36	部
	9	諸經總義類		28	部	16	史評類	8	部
	10	小學類		92	部	17	史鈔類	（無書）	
Ⅱ	史	部	小計	194	部	Ⅲ 子	部	小計 453	部
	1	正史類		60	部	1	諸子合刻類	5	部
	2	編年類		8	部	2	儒家類	74	部
	3	紀事本末類		（無書）		3	兵家類	4	部
	4	古史類		10	部	4	法家類	4	部
	5	別史類		8	部	5	農家類	1	部
	6	雑史類		2	部	6	醫家類	（無書）	

	7	天文算法類	2	部
	8	術數類	1	部
	9	藝術類	23	部
	10	雜家類	33	部
	11	類書類	19	部
	12	小説家類	19	部
	13	釋家類	15	部
	14	道家類	18	部
	15	キリスト教（耶蘇教）	235	部
Ⅳ	集　部	小計	241	部
	1	楚辭類	3	部
	2	別集類	133	部
	3	總集類	68	部
	4	詩文評類	13	部
	5	詞曲類	16	部
	6	小説類	8	部
Ⅴ	叢　書　部	小計	14	部
	1	雜叢類	5	部
	2	景仿類	1	部
	3	輯佚類	1	部
	4	郡邑類	3	部
	5	一姓所箸書類	2	部
	6	一人所箸書類	2	部
Ⅵ	新　學　部		8	部

	［準漢籍］	計	73 部
Ⅰ	經　部		43 部
Ⅱ	史　部		12 部
Ⅲ	子　部		11 部
Ⅳ	集　部		7 部

	［国書漢文］	計	196 部
1	漢学		10 部
2	通史・雑伝・雑史		22 部
3	漢字・音韻・語法		16 部
4	詩文評・作詩作文		11 部
5	総集		7 部
6	別集		136 部
7	日記・遊記		1 部
8	教科書・啓蒙書		3 部